

# 「プロモーションビデオ制作と発信を通して気を付けることを考えよう」

上越教育大学附属小学校 水谷 徹平

## 1. はじめに（教育活動の背景とねらい）

総務省が行った平成 24 年通信利用動向調査では、インターネット利用について、6~12 歳で 69%、13~19 歳で 97%と大きな割合を示し、スマートフォンやタブレット型端末での利用が伸びている。情報化、個人化が進んでいる現状を鑑み、著作物の適切な利用、知的財産を尊重する態度を育む単元開発はますます必要である。その際、大和（2013）は「子どもたちにとって大切なのは他人の著作物を利用する場面に直面してどのように行動をとるかということ、考えたり体験したりすること」と述べる。情報化社会に参画する態度として位置づけられる、情報モラルの実践力や著作権意識の醸成について、教室での指導と実生活との乖離、指導が子どもの実践力に直結しない状況を、子ども自身が情報発信を行う活動の中で解決していきたいと考える。本実践では、総合学習での活動内容と伝えたい思いと内容について、ことばと映像、音楽などを組み合わせ、編集し映像化を行い、発信する活動を行った。自信が著作者となるとともに、他者の著作物を二次利用する経験、許諾を取る行動を通して、情報発信の責任や、著作者の利益侵害や気持ちへ思いを馳せ、著作権意識や知的財産の創造を尊重する心情を育む活動を試みた。



## 2. 実践の内容と方法

本実践では、小学校 6 学年 39 名を対象に、総合学習で活動しているエネルギーについて、伝えたい思いと内容について、国語と総合学習としてことばと写真や映像、音楽などを組み合わせ、編集し映像化した。

## 3. 教育活動を行う前の児童生徒の状況

著作権という言葉は知っている子どもはほとんどであったが、それが何を意味するものかを正確に理解している子どもはいなかった。PV 作成と公開に当たって、ネット上に上がっている写真を利用することについては 9 割以上、自分が購入した CD の音源を BGM として利用することは 6 割以上の子どもが心情的に問題ないととらえていた。また、社会のルール(法律上)を考えても、ネット上などに不正にアップロードされている動画などの現状から、許諾のない複製や 2 次利用などに大きな問題を感じていない子どもがほとんどであった。



## 4. 教育活動を行うにあたって目指したもの

ルールを押し付けたり、指導をして教え込んだりしても、ネット上や身近な大人が行なっている現状との違いや、見つからないようにやればいいという考えを越えて行くことは難しい。そこで、PV を制作し、発信する過程を通して、①制作者、情報発信者という立場を行き来し、多様な立場から作品や作品制作の過程を考える、②文化祭での発表やインターネットでの公開を通して、著作権者への影響について考える、③著作物を二次利用して発信する際の、社会における約束を確かめるという 3 点を、子ども自身がそれぞれの価値観で考えたり、ぶつけ合ったりしながら作り上げていく単元として構成した。

## 5. 教育活動の内容, 流れ

総合活動では, 年間を通じて化石燃料に代表される枯渇性エネルギーの利活用や, 太陽光, 風力, 水力, バイオマスエネルギーといった再生可能エネルギー生産と消費を重ねる。(図 3) また, 発電施設やエネルギー生産に携わる人々の工夫や思い, メリットとデメリットを目の当たりにする。活動を通して一人一人が今後の社会在り方や自己の生き方を考える計画を立てた。(表 1)

### (1) 直接, 相手に見せるPVについて

総合活動と連動し, 6月, 活動を紹介したり, 活動を理解して協力してもらったりすることを目的にPVを制作した。5人程度に1台のデジカメとPCを用意し, 風力・水力・火力・太陽光・人力発電といったチームごとの活動やそれをイメージさせる映像を活動しながら撮影し, 撮影した素材で, 15秒のPVを制作した。(図 1)

構成やキャッチコピーを意識して, ブラッシュアップし, ソーラークッカーチームからは, ①「project SC」といキャプションで外で設計図を考えて書いているところ(3秒), ②「太陽の熱で料理」というキャプションでボールと鏡で太陽の光を集めているところ(2秒), ③「太陽のエネルギーを利用」というキャプションで, 鏡で青空を

反射させているところ(2秒), ④「太陽の熱で巨大料理気を作成」というキャプションでボールクッカーをつくらせているところ(3秒), ⑤「私たちは, 自然のエネルギーを有効活用していきます。」というキャッチコピーで水筒と軍手が写っているところ(5秒)という構成を, 市販CDよりリッピングした楽曲のリズムに合わせてテンポよく場面をワープする作品が紹介された。(図 2)

感想交流では, 最終場面の水筒と軍手の静止画にキャッチコピーで「苦勞して

総合活動 エネルギーをいかに		国語科 伝えることば 伝えることば
4	生活で使われるエネルギーを考える活動	エネルギーをつくる活動 研究者や企業(イネ原料バイオエタノール地域協議会)とタイアップした, 仮想のエネルギー生産企業を運営し, エネルギーをつくる中で調べたり考えたりする。 <b>電気をつくる</b> ・風力発電(風車づくり, 発電, 蓄電) ・水力発電(水車づくり, 発電, 蓄電) ・人力発電(エアロバイクの改造, 発電, 蓄電) ・太陽光発電(ソーラーパネル設置, 発電, 蓄電) <b>原料を加工する</b> ・バイオエタノール精製(発酵, 蒸留) ・天ぷら油廃油
5	電気の使用量調べ ・ガソリンスタ	
6	エネルギーがつけられる現場を訪ねる活動 30発電所や石油石製, 運輸設備や, そこに携わる人を訪ねて考えをつくる	
7	イベント「ノー電気デー」 ・蓄電したバッテリー, 廃油ろうそくなどで過ごす	プロモーションビデオを作成 I ・テレビCMを読み解く ・自分たちの活動を紹介する <b>気を付けることを考える</b> ・直接, 相手に見せるPV作成について考える。
9	関川水系水力発電所 直江津風力発電所 上越火力発電所 メガソーラー上越	エネルギーをいかに活動 ・家庭, 学校での使用電力調査 <b>気を付けることを考える</b> ・文化祭のお客さんに見せるPV作成について考える。
10	日照量による発電量の違いの調査 穀物の価格とバイオエタノールの関係調査	プロモーションビデオを作成 II ・思いや考えを文化祭で伝える
11	化石燃料の埋蔵予想と二酸化炭素排出による温暖化の調査 ソーラーパインクルームへの	プロモーションビデオを作成 III ・自分たちの思いや缶苗をネット上にアップする <b>気を付けることを考える</b> ・ネット上にアップする際に気を付けることを考える。
	宿泊体験活動	・ブラッシュアップ

表 1 年間指導計画(著作権にかかわる部分の抜粋)

①構成メモと絵コンテを基に, どのPVにするかをチームで考える		④動画編集ソフトで映像やBGM, キャッチコピーなどを組み合わせる	
②学級で発表し, 相互でブラッシュアップする		⑤相互評価し, 気を付けること, 直した方がいいことを話し合う	
③撮影したり, 今までの映像を選んだりして材料を収集選択する		⑥話し合いを基に動画を修正し, PVを完成させる	

図 1 PV作成の流れ

手作業する様子が伝わる」、「作業完成間近を示している」と読み手が能動的にキャプションや動画を読み解く含意性、内包性のある作品となった。他のチームも、説明的表現に加え、活動のエピソードを表す物語、活動での思いを表す随想、象徴的な言葉や映像で表わす韻文的表現など多様化していった。

また、「CDの曲を勝手に使っているのか？」という問題が話し合われた。「お金を出して買ったCDだから、コピーせずに見せるだけならいいんじゃない？」

「勝手に使ってはダメなんじゃないか」といった意見が出て、議論になった。「BGMに使うCDの制作に関わった人はだれか？」という問いから、歌っている歌手、演奏したバンド、作詞・作曲した人、CDのジャケット写真を撮った人…と数多

<p>① Project SC」3秒 <b>【静止画】</b> 外で設計図を考えて書いているところ</p>	 <p>project SC</p>	<p>④ 太陽の熱で巨大料理機を作成」3秒 <b>【静止画】</b> ボールクッカーをつくっているところ</p>	 <p>太陽の熱での巨大料理機を作成。</p>
<p>② 太陽の熱で料理」2秒 <b>【静止画】</b> ボウルと鏡で太陽の光を集めているところ</p>	 <p>太陽の熱で料理。</p>	<p>⑤ 私たちは、自然のエネルギーを有効活用していきます。」15秒 <b>【静止画】</b> 水筒と軍手</p>	 <p>私たちは、自然のエネルギーを有効活用していきます。 上教大附属小学校 project S C 一同</p>
<p>③ 太陽のエネルギーを利用」2秒 <b>【静止画】</b> 鏡で青空を反射させているところ</p>	 <p>太陽のエネルギーを利用。</p>	<p><b>他の効果</b></p> <p><b>【BGM】</b> アーティストの楽曲を市販CDよりリッピングして使用</p> <p><b>【ランジョン】</b> 曲のリズムに合わせて画面をワイプで切り替え</p>	

図2 6月のソーラークッカーチームのPV

<p>4月、子どもにとって目に見える身近なエネルギー活用の代表である化石燃料と電気を使用するバギーで、エネルギーを使って動かすことを楽しんだ。ガソリンエンジンの圧倒的なパワーや、貯めたり、出力を自由に調整したりできるモーター駆動のバギーで電気の取り扱いの容易さを実感した。 燃料やバッテリーが切れたバギーは当然、動かなくなった。この経験をきっかけに今後の活動とエネルギー源を模索した。</p>		<p>モーターの回転運動を発電につなげようと自転車のライトを発電するハブダイナモを使い、プロペラ型風車やパドル型風車の試作を続け、充電式のニッケル水素電池に蓄電するようになった。回転で絡まない配線、防水などで試行錯誤を重ね、ダイナモから配線した電池ボックスに電池を接続し、電気を貯める形となっている。1学期終了段階で、26本の単3型電池（1.2V 1900mAh×26本）に充電が完了した。</p>	
<p>光電池を扱うチーム。ソーラーパネルを販売している保護者から協力いただき、大型のものを手に入れた。テスターで出力をモニターしながら実験用光電池との圧倒的な性能差を知るとともに、太陽の方向に指向し、アルミの集光板を自作して…と効率を上げていった。満タンになったバッテリーはプレハブ内に設置し、扇風機やインパクトドライバ・ジグソーなど電動工具の電源として利用している。</p>		<p>水力発電チームは、初め、水を回転に変えようと試行を重ね、散水用スプリンクラーに目を付け、子どもの一人が家から持参した。水道水とホースを接続し、リムダイナモで発電に成功。水車自体の改良を重ね、ハブダイナモにアルミ製片手鍋を取りつけた直径50cm程の水平軸型水車を試作。更なる改良を施し、柄杓を4本とし、屋根の雨水を雨どいで導いてバスタブのため、水圧を一定にして発電をしている。</p>	
<p>圧力鍋の水を沸騰させ、蒸気で風車を回そう、廃ポケットバイクの2サイクルエンジンをダイナモとつなごうとしている火力発電、エアロバイクとダイナモを接続しようとしている人力発電チームも試行を重ねている。</p>		<p>太陽の熱を利用しよう試行するソーラークッカーチーム。改良を重ね、ブラダンとアルミシートで高さ1.8m、底面の直径1m強の円柱を2分した形の巨大ソーラークッカーを製作している。</p>	

図3 総合活動「エネルギーをいかす」における活動の歩み

くの人がかかわっていることに気付き、「勝手に使うとその人たちにとってどうか」という話題から、「もしイメージダウンするようなPVで使ったら、歌った人や作った人は嫌かもね…」、「お金を出して買っていないたくさんの人にも聞かれちゃっていいのかな?」といった、著作権者の心情面と、金銭面についての問題意識が生まれた。また、「自分たちが作ったPVも、勝手に流されたり、一部だけ使われたりしたらどう?」という話題から、「使われ方によってはやめてほしい」「聞いてくれれば判断できるけど…」といった意見も出た。作品には勝手に使われたり、変えられたりしない権利が認められている、著作権という概念を伝えるとともに、教育目的における特例についても教え、使用は各チームに委ねた。

### (2) 文化祭で紹介するPVについて

9, 10月には、活動紹介に加え、活動を進めていく中で、自分たちが考えたり、思ったりしていることを表現したPVの作成となった。9月については、主として文化祭での発信を考えた。

文化祭では、学級の作品展示に併設する形でPVを紹介した。自分たちが発電した電気を使った、RCカーで遊



図4 ポプラ祭 文化祭)当日の活動の様子

べるコーナーやランプなど展示と共に、バッテリーでデジタルテレビとPCを動かした。(図4) 活動紹介や協力を求めるものだけでなく、クリーンエネルギーへの代替えや節電など、活動を進める上で自分たちが感じた思いや伝えたいことを表現したものが多くなっていった。

6月に話題になった音楽の利用については、やはりCD音源を使いたいと希望するチームがあった。教師の側から投げかけなくてもCRICやJASRACのウェブページで著作物の適正な利用について自分たちで調べ、文化祭での発信は、著作権法の特例に当たることを確かめる姿があった。ブラッシュアップでは他のチームから音源使用について指摘され、学級全体にも文化祭での使用は問題ないことを共通理解した。

保護者や地域の方からは、「がんばって発電してきたこと、やってきたことがよく分かった」、「音楽とあわせたキャッチコピーが心に残った」「エネルギーについてもっといろんな人に考えてほしいので、さらに多くの人に動画を紹介してほしい」などとアンケートで答えてもらい、満足度を高めた。

### (3) ネット上にアップロードするPVについて

10月、文化祭でのPR活動を更に広げたいという気持ちを持ち、子どもたちは、ネット上での公開を行いたいと考えるようになった。文化祭用のPVをネット上にアップロードする際、気を付けた方がいいことについて話し合った。音源については、CRICやJASRACのウェブページ許諾が必要ながことが分かっていたため、レコード会社に連絡を取り、許可を求めているところである。また、福島原発の写真を使いたいチームからの問題提議で「ネット上の写真を無断で使っていいのか」という議論になった。「本をコピーするのは売り物だからダメだけれど、ネットは無料で、使われてもいいから公開しているんじゃない?」という子どもも半数ほどいた。「自分たちの写真や作品ならどうか」という視点での話し合いの末、「ネットにあがっている写真だからと言って勝手に使っていいわけではない」とまとまった。様々な意見が出たことにふれながら、写真も著作物であること、公開されていても許可なく複製や2次利用して公開されない権利があることを教師が示し、著作権の範囲を確認した。



## 6. 教育活動を行った後の児童の変容

活動を行ったことで、文化祭や市の音楽祭で行うミュージカルで使う楽曲やCD音源について、「文化祭は授業の一環だから許可はいらないね」、「ネット上の写真を勝手に使うわけにはいかない」など、著作権を意識するようになっている。

また、「昼の放送で音楽を流すのは大丈夫なのかな？調べてみよう」と調べて見たり「このCDをPVに使っていいかどうか、レコード会社にメールしてみよう」と、著作物を利用する際に、許可が必要なのかどうかを意識し、調べたり許諾を取ろうとしたりする行動につながっている。

## 7. 本実践における成果と課題

### (1) 実践における成果

3つの視点をもとにPVを制作し、発信する活動を行った。結果、以下のような成果が見られた。

①多用な立場から作品や作品制作の過程を考えることで、著作物や知的財産を尊重する意識を高めることにつながった。②著作権者の心情や経済的な損失に思いを馳せるとともに、創造性や知的財産を大切にしない社会に変化してしまうことへの社会的損失について考えることになった。③著作権者への許諾をとったり、著作権法がどうなっているかを確認したりすることにつながり、情報発信の責任や著作権意識を含めた情報化社会に参画する態度を育んだ。実際に自分自身も著作物を制作し、心情や影響を多様な立場から考えながら権利を確認し、許諾をとって二次利用していくことで、著作物を大切にしようとする心情、社会へ与える影響を考えた実践力を育むことにつながった。

### (2) 実践における課題

自分たちが発信したい思いや考えを元に、影響を考えながら著作物を制作したり二次利用したりして発信する活動は、時間がかかる。また、他の教育活動と連動して実施せざるを得ず、系統的、段階的に全ての学級で行うことは難しい。

また、今回の実践では、創造的な社会、著作物や知的財産を尊重する社会へ向かう気持ちを育む部分が弱かった。アイデアや技術を大切にすることは、資源がなく、人口も減りつつある我が国が生き残るために必要な国のアイデアや技術を創造する人を尊重する社会への道筋や、他者や他国の著作権侵害へ毅然と立ち向かう態度へ繋がると感じるからである。著作権を尊重する教育活動の系統性を確保すること、創造的な社会、著作物や知的財産を尊重する社会へ向かう気持ちを育む実践や単元をつくることの2点について、今後も思考し、試行して実践を重ねていきたいと考える。

### 引用・参考文献

「先生のための入門書 著作権教育の第一歩」川瀬 真 他，三省堂（2013）

「著作権法入門 2013－2014」公益社団法人著作権情報センター，文化庁，（2013）

